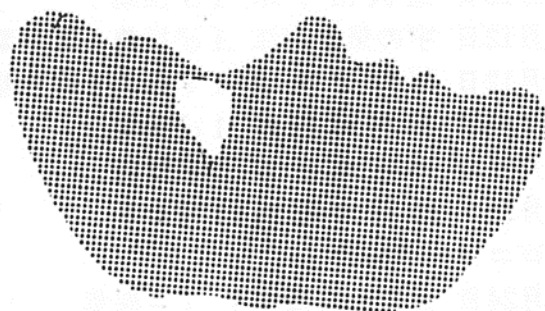


COONEL



百万石蝶談会

NO. 94 FEBRUARY 1992

## 1991年の石川県はコノマチョウが豊作？

松井 正人

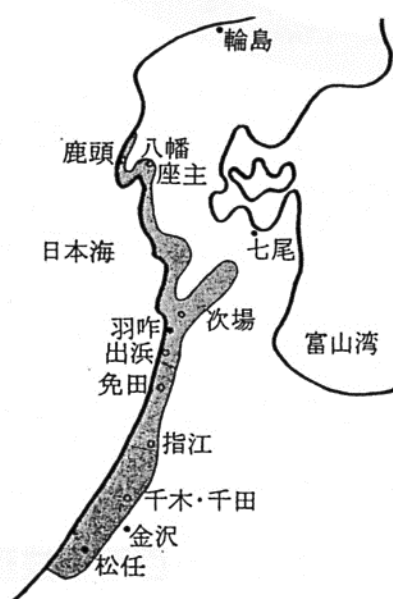
9月28日未明、県内を大型台風19号が通り過ぎた。雨は降らなかったものの、大変な暴風で、各地に甚大な損害をもたらした。なかでも能登地方の被害が大きく、100～200年の風雪を耐え抜いた大木がバタバタ倒れた。

そんな折に能登へと出かけたところ、主要な道路以外はほとんど倒木で通行できず、山へは全く近付けない状態だった事から、普段は足を向けない海岸方面へと回った。学校や民家の花壇等を見回っているうちに、偶然民家の庭先からウスイロコノマチョウを発見し、1♂2♀を採集した。ウスイロコノマチョウは県内に分布せず、この3頭の破損もかなりはげしいことから、台風によって運ばれてきたものと思われた。その後再び自宅付近の神社でウスイロコノマチョウ2♂を発見したことから、台風により相当数の個体が飛来していると考え、調査を始めた。

調査地には平地にポツンと残された林を選んだところ、神社林と屋敷林があり、能登においては屋敷林の方が立派で数も多いように感じられたが、調査の都合上神社林のみを対象とした。

金沢市北部から能登にかけての調査では、ちょっとした木立とブッシュさえ有れば林とは到底呼べないところ、例えば高さ5m程の木が2～3本とそれを包むようなブッシュの中からも、ウスイロコノマチョウは発見でき、新鮮な秋型まで見られた。更に、これまた県内には分布しないとされるクロコノマチョウの新鮮な秋型も得られた。しかし、ほとんどの金沢市域とそれ以南では、条件がそろっていると思われる神社林が多々あるにも係わらず、1頭のみ目撃さえできなかった。

## 《1991年コノマチョウ地図》



## 調査地域

## ウスイロコノマチョウ

- 9月29日 富来町鹿頭 1♂2♀採集
- 10月5日 金沢市千田 2♂採集
- 10月12日 金沢市千木 1♂採集
- 10月12日 宇の気町指江 1♂採集 1頭目撃
- 10月12日 羽咋市次場 1♀採集 1頭目撃
- 10月24日 富来町鹿頭 1♂採集
- 10月26日 押水町免田 1頭採集
- 10月26日 志雄町出浜 1頭目撃

## クロコノマチョウ

- 10月24日 富来町八幡座主 1♀採集

(記録者は全て松井正人)

今回はたまたま大型台風が通過し、それによって運ばれてきたであろう迷蝶の調査を行い、金沢市北部から富来町にかけてウスイロコノマチョウ13頭、クロコノマチョウ1頭を発見した。この中で両種共に新鮮な秋型が見られた事から、両種共に台風以前の県内進入と世代交代が考えられ、これは、これまでも台風に関係無く県内に進入し、世代を繰り返している可能性を匂わせている。県内に於ける両種の記録は、ウスイロコノマチョウは3例(1,2,3)、クロコノマチョウは2例(4,5)と少なく、これは県内に分布しないとの思い込みから、調査されていなかった結果とも思われる。

最近各地においてコノマチョウ北上の話題がにぎやかだが、県内においても毎年夏から秋にかけてひっそりと世代を重ねている、いやクロコノマチョウはひょっとして越冬しているかも知れず、これら2種の調査は台風の有無に関わらず今後継続する必要があると思われる。最後に未発表データの使用を快く承諾された竹谷宏二氏に感謝します。



ウスイロコノマチョウ 1991年10月12日 宇の気町指江にて

《参考文献》

- 1) 橋場 清(1989):とっくりばち(55), (1987-8-25, 金沢市粟崎, 1♀, 入場 登)
- 2) 北陸中日新聞(1990):9月26日日刊, (1990-9-13, 小松市中海, 1頭, 東 祥弘)
- 3) 未発表, (1990-9-24, 松任市三浦, 1頭目撃, 竹谷宏二)
- 4) 武藤 明(1965):生物研究9(3・4), (1964-8-30, 鹿島町芹川, 1♀, 尾田良知)
- 5) 松枝 章(1983):とっくりばち(48), (1982-7-23, 穴水町乙ヶ崎, 1♀, 松枝 章)

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

石川県石川郡河内村板尾産のミヤマカラスアゲハは元来多産することで良く知られているが、1990年はことのほか発生量の多い年であった。

毎年板尾へ出かけるわけではないので詳しくは記述できないが、前年の冬期降雪量の多少、夏季における日照量（1988、1989年は特に冷夏と言われた）の問題等いろいろ要因が考えられようが、ともかくその発生量は「凄かった」の一言に尽きる。

この年友人からの採集依頼もあって、5月の連休明けより9月中旬にかけてほとんど毎週（延べ17日間）板尾へ出かけ、車止の終点より3～4kmの行程を歩き採集した。

当然ながら成果はほとんど雄で、雌は2化と思われるもの2頭を8月25日に採集したにとどまり、雌の採集の難しさを痛切に感じた。

図鑑類を精読すると、東日本では2化、西日本では3化もあると書かれているが、当地における自然状態を観察した限りでは、1化、2化は見分けられるものの、はっきり3化と断言できるものは結局認められなかった。しかし、多数の採集個体を比較検討すると、3化でなかろうかと思われるものも何頭もあり、今後調査検討を重ねた上で結論づけたい。

1990年の採集品・観察例を整理して、以下に所感を述べてみる。

## 1. 第 1 化

5月12日、一挙に大発生。20～30頭ぐらゐの雄吸水集団が多数形成され、多い例では70～80頭の大集団を確認した。例年ならば翌週再度採集を試み春型採集の打ち止めとし、他種の方に目を向けてしまうのだが、5～6月にかけて土・日曜日は晴れていればほとんど毎週当地へ出向いた。その結果、吸水群の中には破損個体も新鮮個体も半々の状況で、それが6月半ばまで確認できた。飛翔力の強い本種は、溪流沿いに高標高の発生地点より次々に飛来するものと思われる。一般的に後翅表面に現れる金青緑色帯は裏面の白状帯の明確度・広幅度に左右される。例外もあるものの、事実白帯が幅広く明確に現れている個体の表面の金緑色の帯は実に美しい。当地での別種カラスアゲハは、ミヤマカラスアゲハに比較しておよそ1週間程度遅れて発生するものの、その発生量はミヤマカラスアゲハとは比較にならず劣勢。食樹もあまり確認できない。板尾林道脇の食樹、キハダを何回か巡回し採卵・採幼を試みたが1卵1幼虫も確認することができなかった。かつて諸道秀人氏が金沢工業大学在学中に何度かミヤマカラスアゲハ採幼にお供した時（秋）は簡単に採幼できたのに、春型産卵の卵・幼虫の自然状態での確認は意外に難しかった。当地での春型雌の産卵は、キハダには産み付けず、他の食樹カラスザンショウ等に産卵するのも知れず、キハダときめつけて採卵・採幼したのが間違いの元であったようだ。

## 2. 第 2 化

7月8日、板尾では2化のミヤマカラスアゲハの雄の吸水集団を8グループ程確認できた。2化の採集はその後8月上旬ぐらいまで続けた。発生量は1化春型に比べ少ないもののカラスアゲハより優勢で、10対1位の比率で、まずほとんどがミヤマカラスアゲハであった。吸水群はほとんど完全品で春型に比べ一段と飛翔力が強く奥地より次々と飛来が認められた。7月27日以降、板尾川沿いはオロロ（アブ）が大発生。溪流沿いでの採集は厳しく、ここで一旦採集行を中断せざるを得なかった。

8月11日、板尾での採集を再開。アブとの空中戦は依然として必要であるものの、林道入口の鍵が外されていて自動車の乗り入れが可能。非常に助かる。後翅表面の金緑色帯と裏面の白色帯鱗粉について、2化は一般的に細く時にはかすかに白帯の所在が有るか無いかを示す程度のものが多いとされているが、この年の採集品を見る限りでは、1化春型程ではないにしても、明瞭に出現しているものが多くみられた。表面の金緑色帯についても春型をそのまま大きくしたようなものも採れている。ただ、それらについては羽化直後の高鮮度のもので、従来2化の完品採集にめぐり合わなかったことからの格差とも考えられる。

表面金緑色帯について今一度検討してみると、8月下旬～9月にかけて吸水している個体に紺青味の強い個体がしばしば混成しているのを観察した。これが3化個体のような気がして成らないが明確に断言できない。9月2日に春型をそのまま一回り大きくしたような雄（若干の破損）が得られた。9月第2週の土日曜日以降は全く雄吸水集団を見ることは無くなった。

## 3. そして……第3化

8月25日、当地は秋色が濃く、林道脇のススキの穂の成長がうとましくなってきた。開花したクサギ(?)の大群落に多数の本種を確認。雄は大半が破損個体。オナガアゲハ、モンキアゲハ、カラスアゲハ、アゲハ、キアゲハに混じり本種がやはり圧倒的に多い。2頭のミヤマカラスアゲハの雌を持ち帰り、強制採卵に使った。内1頭は産卵せずに死亡。他方は1日おいた8月27日に40卵弱を産卵。採卵方法は松井式を応用した。残暑が厳しくそのメスはその日に死亡。また、1日おいて8月29日全てフ化。母蝶の腹部内での卵の成熟度が高かったのか(?)そのハイスピードに驚いてしまった。食樹は自宅植栽のキハダで全幼虫期を通した。9月29日、1頭が前蛹。自然状態ではないがこれまたハイスピードで蛹化。終齢幼虫の頭部及び側帯に一部黒化の強いものが有るのを小学校4年の末娘が発見。「違う種類なのか?」という。分からないことがまたひとつ。採卵に使った母蝶は汚損、破損がひどかったが、強制採卵した卵から年内羽化が有ることを願いつつ、あえて展翅し標本化した。

《さがい じゅんろう 〒921 金沢市額谷3-18-2》

## 加賀市にてツマグロキチョウを確認

江口元章

1991年10月26日、加賀市橋立にてツマグロキチョウを目撃した。発見場所はハンノキが疎らに生える湿地帯で、ツマグロキチョウはミゾソバの花で吸蜜していた。石川県内でのツマグロキチョウの記録は少ないようなので報告しておく。

ツマグロキチョウ 1991年10月26日 加賀市橋立 1♂目撃 江口元章

《えぐちもとあき 〒920 金沢市泉野出町3-1-16》

## カミキリムシ3種の採集記録

井村正行

1 クロホソコバネカミキリ (Necydalis harmandi)

1991年8月11日 石川郡白峰村白山釈迦林道 1♂ 上田 昇採集

本県に於いては1♀(入場 登氏採集)の記録しか無く、2例目であり、♂は初めて記録された。また、本種は、多くのオオホソコバネカミキリの♂に混じってブナの立枯より採集された。本種の報告を快く承諾された上田 昇氏に感謝する。

2 オオヨツスジハナカミキリ (Leptura regalis)

1990年8月5日 石川郡白峰村大杉谷林道 1♀ 上田 昇採集

1991年7月22日 能美郡辰口町長滝 1♂ 江口元章採集

1991年7月23日 " 2♀ 江口元章採集

本県に於いては過去に採集されたと聞いていたが、これまで採集個体を見た事が無く、また採集データも発見できなかった。江口元章氏によると、小松方面でも本種を採集しているとの事である。本種の報告を快く承諾された、上田、江口の両氏に感謝する。

3 ベニバハナカミキリ (Paranaspia anaspidoidea)

1991年7月14日 石川郡白峰村市瀬 1♀ 井村正行採集

石川県では白山山麓に2頭の記録があるのみで、1頭は飛翔中のもの、また1頭はノリウツギの花に來たものが採集されている。今回はドロノキの生木の根際の腐朽部から採集していることから、ドロノキが本種の1ホストの可能性もあると思われる。

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

## 真夏の飛騨・信濃路ひとり旅

勝海雅夫

昨年はゴマシジミを狙って、特にブルーのきれいな山梨県須玉町周辺を探したが全く発見できなかった。今年こそ、あのワレモコウの花穂にブルーの翅を半開きにして止まっているゴマシジミを見たくて、8月17日の早朝、金沢を出発した。

まず高山市のゴマシジミから見ていくことにした。途中、飛騨古川にてヒメシロチョウを観察したが、5頭と発生が今ひとつ。先が思いやられる…。高山市の周辺には原山、船山、位山のスキー場があり、ゴマシジミは原山が有名で、この日も2人の採集者が網を振っており、どうも数は期待できそうにない。2年前は一番手前の斜面が良かったが、どうも先客が入っているようで、東側の左斜面よりしかける事にした。リフトの斜面にポツポツとワレモコウが生えだした辺りから、まず1頭仕留める。ここ数日は毎日誰かがここに入っているであろう、採れるのは新鮮な個体ばかりである。原山スキー場ばかりでなく、他のスキー場を調査するのも良いかも知れない。

原山はそうそうに切り上げ、野麦峠に向かう事にした。途中、久々野町にてゴマシジミ1頭を仕留めたが、ここは雑草が伸び過ぎて期待できない。野麦峠に向かうまでの林道と沢の出合いにて、キベリタテハ2頭とエルタテハ1頭を得た。野麦峠から奈川村までは、オヒョウ食いのカラスシジミ2♀のみで終わった。奈川村のゴマシジミは、境峠・曾倉・黒川渡と広く分布しているが、産地は局地的である。今回は、黒川渡・古宿のポイントを、会員の野中大先輩より御教示いただいております、採集する事に決めていた。黒川渡のポイントは、奈川スキー場・奈川小学校の周辺が上げられる。古宿の村落ポイントは、田畑の畦に生えているワレモコウで発生している。ポイントは、道なりに進むと左右に分かれており、どちらでも良いが左のポイントの方が多かった。最後はオートキャンプ地、高ソマキャンプ場にてキベリタテハ1頭を採集して今日の納竿とした。

8月18日も朝から夏の日差しが照りつけ採集日和となった。今日は山梨県北巨摩郡須玉町から狙うことにし、中央高速道の須玉I.C.を降りて増富温泉へ一路車を走らせた。情報では増富温泉には行かずに左に折れて黒森と言う村落の道路沿いのワレモコウで発生しているはずであったが、ポイントである墓地周辺は下草刈りのためゴマシジミを確認する事ができなかった。せつかくここまで来ておきながら来た道を引き返すのもしゃくにさわるので、信州峠を越えて長野県側へ行く事にした。峠を越えるとすぐ目の前にレタス畑が広がっており、高原野菜の取り入れに忙しい農家の人達を尻目に、畦道のワレモコウをビーティングしたが、ヒメシジミくらいしか出てこなかった。ここは南佐久郡川上村で、文献では記録されているので寄ってみたが絶滅してしまったの

だろうか？ あと50km東に走れば秩父山地を抜けて埼玉県に入る距離にあるので採集禍によるものかもしれない。これは憶測の域である。しかし今回もあのブルーのゴマシジミはおあずけなのだろうか！

仕方なく旧ポイントに行く事にした。長坂町日野春・若神子は、2年前でも4～5頭しか採れておらず、雑草の背丈もかなり高くなり環境的にも最悪だと思っており、今回の訪問地から抹消していた所である。まず若神子のポイントは、国道141号から若神子を抜けて高根町に向かう途中の公園周辺にて発生しているが、残念なことにひとつのポイントは公園の駐車場に変わり果てていた。気を取り直してアカマツ林の中を50m程進むと、左手のワレモコウの上に2頭のゴマシジミがブルーをのぞかせて吸蜜しているではないか！ ラッキーにも2頭とも採集し、日野春でも1♀を採ることができた。後で聞いた話によれば、この日に明野村三之蔵ポイントで苦労せず20～30頭は採れた事から、いかに正確な情報が貴重であるかを思い知らされた。

ここでゴマシジミはあきらめ、八ヶ岳のベニヒカゲを山梨県側から狙う事にした。清里の俗化を横目に美しの森を経て県界尾根コースにて採集する。結果は今一つであったが、キベリタテハが採れたので満足だった。なぜかと言えば学生の頃(10年前)に何度か来たが、キベリタテハを採ったのは初めてだったからである。この日は、高根町に泊まる事にした。

最終日の8月19日は、開田村へ行く事にし、諏訪湖を左手に望み塩尻峠を越えて中山道木曾福島を経て開田村に入ったのが、午前8時を少し過ぎた頃だった。まず手始めに、ムモンアカシジミから捜すことにして、あのいまわしい「悪魔と鬼の伝説の木」からビーティングを始め、直ぐに1頭の赤い大型のシジミが飛び出し、ネットに入れる事ができた。この発生木より目撃15頭採集10頭。もうひとつのムモンアカポイントを捜したが、今一つはつきりせず、あきらめることにした。

開田を後にし、野麦へ向かうため月夜沢林道を走った。時間短縮と山地性タテハを狙う為に林道を使った訳であるが、結局この両方とも満たされなかった。林道は整備されているどころか、途中には落石があり車1台がやっと通れる所や、サスペンションを痛めてくれそうな石ころごろごろで、また峠までの蝶と言えばヒョドリバナに訪花しているクジャクチョウと峠のキベリタテハ1頭位であった。峠には看板があり、その昔中山道を使えない密偵や隠密の族が月夜に紛れてこの道を利用したのが、その名の由来と書いてあった。

無事野麦へと抜け、再び奈川村でゴマシジミを採った。その際、ヒメジョオンの様な花に来ているムモンアカシジミをネットした。その付近のアリがゾロゾロしている樹を叩いたのは言うまでもないが、再びその姿を見ることはなかった。さらにキベリタテハをつまんで野麦峠を越え、夕闇迫る原山スキー場で屈辱戦を展開したが、今三つの成果に終わり、これにて3日間の採集行にピリオドを打った。



《採集記録》

1991年8月17日

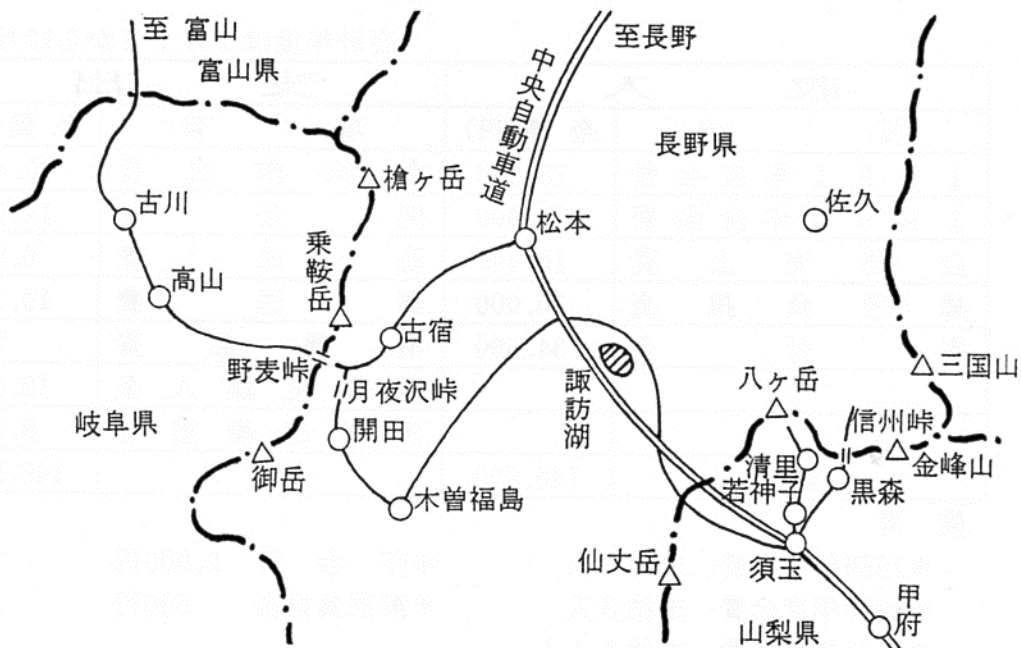
- 岐阜県吉城郡古川町 ヒメシロチョウ 5頭
- 岐阜県高山市原山スキー場 ゴマシジミ 2♂1♀, トラフシジミ 1♀
- 岐阜県大野郡久々野町 ゴマシジミ 1頭
- 長野県南安曇郡奈川村古宿 ゴマシジミ 12♂18♀, クジャクチョウ 3頭, スジボソヤマキチョウ 2♂1♀

1991年8月18日

- 山梨県北巨摩郡須玉町若神子 ゴマシジミ 2♂
- 山梨県北巨摩郡長坂町日野春 ゴマシジミ 1♀, クロミドリシジミ 1♀
- 山梨県北巨摩郡高根町清里 ベニヒカゲ 33♂4♀, クジャクチョウ 7頭, キベリタテハ 3頭, ギンボシヒョウモン 2♀, シータテハ 1頭, スジボソヤマキチョウ 3♂

1991年8月19日

- 長野県木曾郡開田村 アカセセリ 23頭, クジャクチョウ 7頭, キマダラモドキ 1♀, ムモンアカシジミ 3♂7♀, ヤマキチョウ2♂2♀, スジボソヤマキチョウ2♂1♀
- 長野県南安曇郡 奈川村古宿 アカセセリ 1♀, ウラギンスジヒョウモン 1♀, ギンボシヒョウモン1♂1♀, ムモンアカシジミ1♀, ゴマシジミ 4♂9♀, スジボソヤマキチョウ4♂1♀,
- 岐阜県高山市原山スキー場 ゴマシジミ 2♂1♀



《かつみ まさお 〒921 金沢市西金沢新町6番》

## 天空の蝶・アサギマダラ

松井 正人

もちろんこれは「天空の城・ラピュタ」を真似たものである。

宮崎駿氏のアニメの中では、ラピュタはその昔ラピュタ人が科学力を持って天空に浮かした城のことであり、ラピュタ人は天空にあって全世界を支配したとされる。しかし、ラピュタ人が土の大切さを知り地上に降りてからは、主無き城となって天空をさまよう事になる。このラピュタを捜して、パズーとシータの冒険がはじまるのであるが、ヒロインのシータは本人も知らないラピュタの王位継承者、ユシータ王女でもある。

また、アサギマダラの学名は、Parantica sita であり、種小名の sita はサンスクリット語でシーターと読むらしい<sup>1</sup>。

天空に主を失ってさまようラピュタ、大空をフワフワと漂うように飛ぶアサギマダラはどこか似ていないだろうか。そこで宮崎駿氏のこと、王女の名前にアサギマダラの種小名を当てたのではと考えるのは私だけであろうか。

1) 針貝邦夫(1989) 佐賀の昆虫 (22) : 65-72

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

## 1991年収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金額(円)	項 目	金額(円)
1991年度会費	78,000	会誌作成費	80,472
1990年度会費	8,000	例会費	12,000
会誌売上費	16,400	助成費	6,000
郵送負担金	10,000	郵送費	19,735
寄付金	34,500	消耗品費	762
		前年度繰入金	19,645
		次年度繰越金	8,286
計	146,900	計	146,900

## 備 考

\*1989年度会費 未納2人

\*年会費 2,000円

\*1990年度会費 未納6人

\*郵送負担金 500円

\*1991年度会費 未納11人

## 会員の動き。しゃばの動き

❖ミドリシジミが埼玉の県蝶に！  
 昨年の話だが、埼玉県シンボルとして、ミドリシジミが『県蝶』に指定された。県鳥、県木、県花は全国的に知られているが、昆虫が指定されたのはこれが初めて。

❖ツマグロキチョウが採れている！  
 幻のツマグロキチョウが15年ぶりに加賀市は橋立で発見され、更には未確認ながら小松市においても2か所で採集されている。

❖12月24日勝海氏を励ます会！  
 年末のあわただしさの中、勝海氏の栄転が決まり、滋賀県は草津の支店長として赴任する事になった。ところが住宅難で2ヵ月は単身赴任。

❖ゲンゴロウ熱ついに上陸！  
 おなじみ野中、井村、上田の3氏がこじらせ、冬の寒空、お池にはまってさあ大変。中西氏に感染するのも時間の問題。

❖標本箱の共同購入が復活！  
 今から来年の話をするとう鬼が笑うかも知れないが、標本箱の共同購入が今まで通り復活すると思われます。会員の皆さん、今しばらくの辛抱です。

❖12月30日澤田一家バリより帰る！  
 100種目指して出かけたものの、100頭前後の結果に終わる。今は蒸し暑く、朝の涼しい時しか採集できなかったとか。

❖1月3日アナボコトリオ、佐渡より帰る！  
 毎度おなじみ野中、中西、上田の3氏、佐渡せましと掘り回り、ここでもセアカも掘り出した。

❖1月5日井村一家、大隅半島より帰る！  
 車に一家5人を詰め込んで12月30日からの大遠征。桜島の大爆発にも遭遇しながらも、面白いものを一杯採ってきた。

❖冬芽のハイパー検索システム誕生！  
 馬場多久男解説、信濃毎日新聞社発行『冬芽でわかる落葉樹』のパソコン版。林業試験場で開発され、石川県に自生する240種が対象。NECのPC9800シリーズで運用し、冬芽別、50音別、科別の検索が可能。松井氏がコピーサービスを実施中。

❖今年も暖冬？  
 1月15日だと言うのに雪がなく、中宮スキー場は滑走不能で現在閉鎖中。この分だと暖地系の虫も冬を越してるみたいで、クロコノマなんかも越冬してるかも。

❖労せずして夕霧峠！  
 1月18日医王山スキー場 IOX-AROSA が滑走可能になった。ゴンドラとリフトを利用して夕霧峠まで上がり、ピーク付近を散策した後は、スイス風ロッジでワインにチーズフォンデュもよし、スイス衣装をまとったお姉さんに注がれるビールをあおるもよし。

❖澤田氏、バリカゼでダウン！  
 カミさん共々やられてしまい、正月はパー。そんなことよりバリの蝶はバリバリになってしまい、軟化展翅未経験の氏は途方に暮れている。

❖奥能登にクロオオムラサキ産す？  
 コムラサキがクロコムラサキの様に、オオムラサキもクロオオムラサキと呼びたいほど黒いのが、珠洲市で採れている。

**☛ガムシトリオが溜池の掃除？**

1月12日、またまたおなじみ井村、上田、野中の3氏、溜池やら農業用水を掃除。決してボランティアでは無く、チビとかツブとか言ったゴミみたいなムシを採るのが目的。

**☛シャープゲンゴロウモドキ採れる！**

昨年より同ゲンゴロウモドキを捜していたガムシグループは、中西、松井の参入によりパワーアップが図られ、1月26日ついに森本丘陵で発見に到り、採集にも成功した。

**☛必殺技は水中オサ掘り！** シャープゲンゴロウモドキはただのドジョウすくいでは採れず、水底をやたらめったら搔き起こさなければ、まず採れない。これはまさしくオサ掘りで、この場合ピックルよりもよつ鉞が最大の武器となる。

**☛山本氏、ゴマ熱未だ醒めず！**

今夏またまたこちらに遠征し、ゴマを狙って笈や千丈平へ出かける予定。

**例会の記録**

12月6日(金)城南管工2Fにて8時より開催。本年最後の例会にもかかわらず集まりが悪く、10時頃になってほぼ全員がそろった。例年では「10大ニュースの決定」となるところが、写真集編纂に忙殺され、「10大ニュース」は次回持ち越しとなった。今回の話題は、「井村氏、水性昆虫にのめる」「澤田氏、バリへ採集行」「園芸マニアから『寒葵が』が出た」「10大ニュースはどうなった」等々。

参加は、中西、徳本、近藤、野中、澤田、松井、指田、江口、下田、竹谷、井村の11人。

目 次

松井正人：1991年の石川県はコノマチョウが豊作？	1
嵯峨井淳郎：ミヤマカラスアゲハ雑感1	3
江口元章：加賀市にてツマグロキチョウを確認	5
井村正行：カミキリムシ3種の採集記録	5
勝海雅夫：真夏の飛騨・信濃路ひとり旅	6
松井正人：天空の蝶・アサギマダラ	9
編集部：1991年収支報告	9
編集部：会員の動き・しゃぼの動き	10
編集部：例会の記録	11

とぶ

NO.94

1992年2月1日 初版発行  
1995年11月20日 2版発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方  
百万石蝶談会  
☎ 0762-58-2727  
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所